

「銀の鈴」対馬丸より、今を生きている君たちへ」完成披露上映会 6月21日、大阪・天王寺のクレオ大阪中央

# 聚 Party

第二次世界大戦中の1944

4(昭和19)年、沖繩の児童らを乗せ、疎開先の長崎に向かう途中で米潜水艦に撃沈された対馬丸の悲劇を描く映画「銀の鈴」が、沈没65周年の作品として完成。沖繩戦終結の日(23日)にあわせて大阪市内で上映会が開催された。

大阪・門真市の劇団ARRK代表、齋藤勝さん(50)が対

馬丸記念館(那覇市)関係者らの要望に応じて制作。自作の舞台用戯曲「銀の鈴」を映画用脚本に直し、初めてメガホンをとった。撮影は200



舞台あいさつを行った齋藤監督(左端)と、「銀の鈴」のポスター

対馬丸で遭難し、6日間の漂流の末に奄美大島に漂着した上原清さん(76)も上映会に駆けつけ、「搭乗者の半数を占めた児童約800人のうち、助かったのは私を入れて59人だけ。悲劇を知ってもらおう良いきっかけになる」と完成を喜んでいった。

## 「戦争」の描写にすすり泣きも

行った。

大阪は沖繩出身者も多く住むだけに、2回の上映会には約500人が詰めかけ、立ち見も出るほどの盛況。出演者

話を披露した。

上映会では、沈没後も米軍との戦闘に備えて箝口(かんこう)令がしかれ、教師や親だけでなく、生き残った学童

ったこともありません」と裏

齋藤監督は「今後、沖繩など各地で上映会を企画しているが、自主上映会の希望者にはDVDを貸し出した」と話している。問い合わせは「銀の鈴」制作委員会事務局(☎0798・34・2226)へ。(吉村剛史)